

いざという時 頼りになる地域の建設関係団体

—「地域の守り手」としての活躍—

<東日本台風での建設関係団体の活躍>

◆ 令和元年10月に上陸した東日本台風(台風第19号)は、各地に甚大な被害をもたらしました。その中で、地域の建設関係団体は、「地域の守り手」として、発災直後から現場の最前線に立ち、様々な復旧作業に尽力いただきました。

- ▶ 発災直後からの被災状況把握 【写真 ①】 ⇒ ドローンによる浸水箇所調査
- ▶ 応急復旧の準備の迅速化 【写真 ②③】 ⇒ 被災状況調査・災害ごみ撤去
- ▶ 迅速かつ円滑な復旧作業 【写真 ④】 ⇒ 24時間体制での応急復旧工事
- 【写真 ⑤⑥】 ⇒ 他官庁と連携した復旧作業

迅速かつ円滑な災害復旧を実現

※ 県管理河川では被災後約2週間で 135 か所の応急復旧完了

東日本台風における災害協定締結団体の活躍



① ドローンによる浸水調査
【(一社)茨城県建設業協会】



② 被災状況調査
【(公社)茨城県測量・建設コンサルタント協会】



③ 災害ごみの撤去作業
【(一社)茨城県建設業協会】



④ 24時間体制の応急復旧工事
【(一社)茨城県建設業協会】



⑤ 西田川(水戸市)の排水作業
【TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)】



⑥ 浸水による泥の清掃作業
【国土交通省・(一社)茨城県建設業協会】

<災害協定締結団体とは?>

◆ 茨城県土木部では、被災箇所の調査・点検や応急復旧活動を迅速かつ確実にを行うため、関係団体と協定を締結し、支援協力体制の充実を図っています。

⇒ 県土木部で協定を締結している団体は **33** 団体 (R1.4.1時点)